SHIMOHAJI

CAMP & CAFE

しもはじ埴輪キャンプ場 & 納屋カフェ ・通信
２０２６年７月号 ＜No.18＞

〒311-3155 茨城県東茨城郡茨城町下土師1821
キャンプ場：070-3997-3865
納屋カフェ：090-5758-8160

再生畑にたのくろ豆を蒔きました

以前は「畑」だった土地…。でも、様々な事情で耕作ができなくなり、樹木まで生い茂ってしまった「畑」がキャンプ場の奥にあります。その"耕作放棄地"を、「NPO環～WA」では2023年から再生活動をはじめました。生い茂った草やしの竹を刈り払い、太く成長してしまったニワウルシ（重点対策外来種）を伐倒し、根を掘り起こして処理しました。
このニワウルシは秋に種子を飛ばして広域に繁殖を広げます。成長も早いので放置すると10m～25mの大木にもなります。しかも根などから他の植物の成長を阻害する物質を放出するので、周囲の在来植物を駆逐してしまうたいへん厄介な植物です。
そんなニワウルシもすべて処理して復活させた「再生畑」で、2025年は大豆の種を蒔き、秋には収穫することができました。

そして今年、2026年。再生畑の活用は、「NPO環～WA」が進めていた農地再生プロジェクトから、「Shimohaji しもはじ」の発酵常陸の事業として引継ぎました。
6月13日（土）、「大豆プロジェクト」に賛同いただいた方々をはじめ、10名により大豆＝たのくろ豆の種蒔きを実施しました。今年は大豆の種蒔きとともに、畝間に雑草対策も兼ねて緑肥「てまいらずe」を蒔きました。もちろん、カラスに大豆を食べられてはたまらないので、対策として「水糸」を張り、「カラスバスター」も設置しました。2時間半ほどで活動は終わりました。

「大豆プロジェクト」は、今回の種蒔き後、秋には「収穫」イベントを経て、冬の「味噌作り」までの流れを体験するものです。自分で蒔いた種から、最後の「自分味噌」を作る過程は、自分の「食」を見つめ直し、暮らし方を改善する一歩になるかもしれません。
前日にキャンプ泊をした若いキャンパーさん2名も参加しました。
種蒔きを体験した参加者さんからは、
「初めての体験でした。この種が畑で成長し、たくさんの大豆になるのがとても楽しみです」
「収穫の時もキャンプに来て、ぜったいに参加します」
との声が聞かれました。

再生畑での大豆蒔き活動

大豆は在来種のたのくろ豆

種蒔きのポイント溝作り